

【蜃気楼】

海市 山市 蜃楼（かひやぐら）

晴れて風の弱い日、光の屈折によって砂漠に船が見えるというような、あるはずのない景色が見える現象であり、魚津の蜃気楼が有名である。上杉謙信が見たという言い伝えや、加賀藩主が魚津で蜃気楼を見たことを吉兆として、城に喜見城（きけんじょう）と名づけたという言い伝えもある。

中国では、蛤（つまり蜃）が気を吐くことによつて楼を作る現象であると考えられて蜃気楼と呼ばれた。

温度の分布が低空から上空へ高くなっている場合、逆に低くなっている場合、水平方向に変わっている場合で、蜃気楼の見え方がちがっている。それぞれ、上位蜃気楼、下位蜃気楼、側方蜃気楼と呼ばれる。

上位蜃気楼では、水平線から下にある建物が見えたりするので映像になりやすく、報道されることが多い。これが春に現れるのである。

いわゆる逃げ水や浮島というのは下位蜃気楼で、熱い地面や海面に見られる。側方蜃気楼では、物の横に蜃気楼が出現する珍しい現象である。八代海や有明海で見られる不知火はこの現象であると言われている。

室戸ジオパークの「だるま夕日」も蜃気楼で、海面に接する直前の一瞬、太陽がだるま型になる。巨大地震とともに隆起した室戸岬の岩の上で、その瞬間をじっと待つのが楽しい。